

いきもの記

Vol.165 2025.11.8

2年1組 千葉 美文
(科学研究院生物化学班・鳥研究)

9月の中旬ごろ、この日は日曜日だったが、渡り鳥がたくさん来る時期なので、私は理数探究のための干潟調査を行う前に、猿江公園にやってきていた。

この日は、いつも見ている南部ではキビタキくらいしか見られなくて、珍しく北部の方にも足を延ばしてみた。そんな時、自転車で徐行しながらツツドリなどを探していると、「ブーン」と養蜂場のような音が聞こえた。自転車を降りて振り返ってみると、10匹以上のミツバチが木の周りを飛び、その集まる先には500匹を超えると思われる大量のミツバチが枝にとまっていた。「なんだこれは!?この時期に分蜂（新女王バチが生まれたときに元の女王と巣の働きバチの半数が巣から引っ越しを行うこと。普通、春から夏。）か!？」と思いながらシャッターを切った。

ところが、ミツバチの群れがわずか数十秒でバラバラになってしまい、どこかに行ってしまった。そのあと、分蜂したなら巣のミツバチの数は半減しているはずだと思い、すぐ近くにあるミツバチの巣を見に行ってみると、そこにはコガタスズメバチが10匹くらいいた。つまり、ミツバチはコガタスズメバチとの戦争に負けて、巣を占領されてしまったのだ。さっきのミツバチの群れは占領された巣から逃げてきた集団だったのだ。

話は少しさかのぼるが、この数日前に鳥班の調査を行ったとき、北部のミニ木蔵（人口の四角い池で、かつて徳川将軍家や皇室御用達の貯木場として使われていたころの池を再現しているらしい）の近くがコーンで囲われていて、その中にバレーボール1.5個分ほどの大きさのコガタスズメバチの巣があったのを見つけた。おそらく、この巣のコガタスズメバチが襲撃したのだろう。確認のために先ほど撮ったミツバチの大群の写真を見てみると、そこには追撃部隊と思われるコガタスズメバチ2匹が写っていた。コガタスズメバチが占領したことが一目でわかる写真になっていた。この写真と占領されたところの写真を龍平先生にteamsで送ったところ、結構感激してくれた。

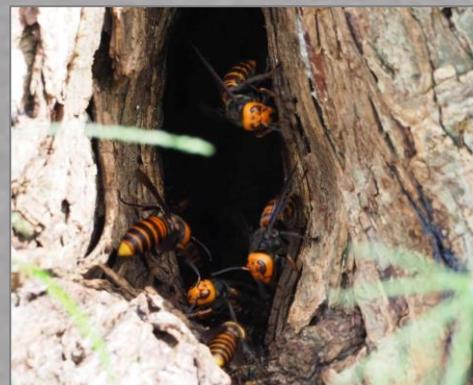
後日、生物の授業で猿江を訪れたとき、龍平先生がいつものように生き物の紹介を行うときにこのコガタスズメバチの占領のことを話してくれた。そして、クラスのみんなで占領されたミツバチの巣を見ていくとき、巣から4mくらい離れたところで観察するように言われた。あれ、私が見ていた距離の4倍くらいあるぞ…離れすぎじゃないか？自己責任の下、近くで巣を見ていた津田先生も2mくらい離れていた。私はもっと近づいて撮っていたのだが…？相当危ないことをしていたのだろうか。1mくらいまで近づいてもスズメバチたちは知らん顔して出入りしていたんだがなあ…。

※読者諸君は私（というか我々いきもの屋）の身の程知らずな行動はマネしないでほしい。

ミツバチの巣が陥落！
スズメバチの襲撃

巣から逃げ出したミツバチの群れ

よく見るとコガタスズメバチの追撃部隊が来ている（赤丸内）。恐ろしいものだ。



←占領されたミツバチの巣
→コガタスズメバチの巣

